

2013.2.19 Report 大場 7/9

■ 2.0 1.3 MAISON & OBJET・傾向その3・PATTERN

■ パターンに関しては、ジオメトリックやデジタルプリント系のもが相変わらず多い。その中でも今年の傾向として、四角（スクエア）、三角（トライアングル）を重視したものが、突出して多く出ている。テーマ的には、少しカジュアル感あるモダンに新鮮さを感じる。デジタル表現では、グラデーションタイプがとて多く、無地調の仕上がりが多い。モチーフとして特筆したい物は、鳥や羽柄。今後増えると予想している。

<p>スクエア・トイインクル</p> <p>幾何学図形がモチーフのデザインが人気。中でもスクエアや三角形は、特に注目を集めている。色合いとしては、多色物が目立っている。</p>	<p>ジオメトリックパターン</p> <p>スクエアや三角形をモチーフとしたデザインが人気。中でもスクエアや三角形は、特に注目を集めている。色合いとしては、多色物が目立っている。</p>
<p>デジタルグラデーション</p> <p>デジタルグラデーションが人気。中でもスクエアや三角形は、特に注目を集めている。色合いとしては、多色物が目立っている。</p>	<p>羽の鳥</p> <p>鳥や羽柄が人気。中でもスクエアや三角形は、特に注目を集めている。色合いとしては、多色物が目立っている。</p>

2013.2.19 Report 大場 8/9

■ 2.0 1.3 MAISON & OBJET・傾向その4・STYLE

■ 2011.2012年とディスプレイをSTYLEで取り上げて来たが、今年は仕様に着目する提案の方が、新しい物の傾向が強かった。この点についてまとめてみたい。一番多かったのは、トリミング手法、素材や色を変えたり、敢えてハイビグに不釣り合いな大柄の生地を使ったりと、自由な発想によるアレンジが多かった。また、リボン表現は繊細な織り物が、可変らしく新鮮に映った。

<p>トリミングスタイル</p> <p>トリミングスタイルが人気。中でもスクエアや三角形は、特に注目を集めている。色合いとしては、多色物が目立っている。</p>	<p>リボンアクセント</p> <p>リボンアクセントが人気。中でもスクエアや三角形は、特に注目を集めている。色合いとしては、多色物が目立っている。</p>
<p>カットテクニック</p> <p>カットテクニックが人気。中でもスクエアや三角形は、特に注目を集めている。色合いとしては、多色物が目立っている。</p>	<p>コンパクト・スタッキング</p> <p>コンパクト・スタッキングが人気。中でもスクエアや三角形は、特に注目を集めている。色合いとしては、多色物が目立っている。</p>
<p>ステッチワーク</p> <p>ステッチワークが人気。中でもスクエアや三角形は、特に注目を集めている。色合いとしては、多色物が目立っている。</p>	<p>フルカラーミックス</p> <p>フルカラーミックスが人気。中でもスクエアや三角形は、特に注目を集めている。色合いとしては、多色物が目立っている。</p>

heimtextil 2014-2015 TREND FORUM

Report: 北原 1/9

■ ハイムテキスタイル / 家庭用、及び商業用テキスタイルの国際見本市

開催期間: 2014年1月10日 ~ 11日

開催会場: フランクフルト国際見本市会場

出展者数: 61カ国から271社出展 (前年62カ国2658社) 日本からの16社 (前年23社) *デザインスタジオ出展含む

来場者数: 133カ国からのおよそ67,000人 (前年128カ国より66,000人)

この数年、様々な分野における技術革新は、環境やモノ、そしてそれらに関わる流通や経済性に大きく変化を与えている。その潮流はテキスタイル分野でも工程や、製品化に至るまで同様の変化をもたらしている。時代を変えるこの大きな変化に目を向け、その中のごれまでとこれらが交差するビジュアルのトレンドをとらえる。

「PROGRESS」(前進)と「REVIVE」(復活)

<コンセプト>
 テキスタイルの本業に求められた可能性ともう一方では、伝統や工芸における過去の遺産や技術を今後にどう生かせるか。
 この大きな2つのコンセプト「PROGRESS」(前進)と「REVIVE」(復活)を軸として、トレンドフォーラムではそれぞれテーマ別のインステレーションを展開。コンセプトは、一歩踏み出す「PROGRESS」のスタイルと「REVIVE」のスタイルの両方の流れがある。

PROGRESS!

① GENERATE COLLISION
 表現と科学
 自然と科学の融合

REVIVE!

① EXALT PURITY
 天然の持つ強い美意識の再考

② REJUVENATE CRAFT
 伝統的なクラフトへの復活と活性化

GENERATE COLLISION

EXALT PURITY

ENGINEER NATURE

REJUVENATE CRAFT

heimtextil 2014-2015 COLOR TREND

Report: 北原 5/9

■ カラー傾向

全体的なトレンドのカラーグループは継続しているものの、その他の構成にフラットな単色使用ではなく、重ね合わせ、グラデーションが特徴。昨年よりオレンジ系がベドリネンを中心に多くみられた。また継続トレンドのブルーは、インディゴブルーの登場で新鮮さを与える。

<p>オレンジトーン</p> <p>アパレルの定番カラーをインテリアカラーが色味をゆったり、重なり合ったり、奥行きを出したり。</p>	<p>クールグレー</p> <p>ニュートラルグループの中でも落ち着いたクールグレーの色合いが注目を集めた。グレーのトーンにより洗練された印象を醸成。全体的に明るいトーンへ移行。</p>
<p>オンプレブルー</p> <p>インディゴのブルーがインスピレーション、アクセント、アクセント、アクセントで表現される。グッドな雰囲気を出すのに、暖かさを演出するアクセントのカラーとして注目を集めた。</p>	<p>フルカラーミックス</p> <p>概念を行き届かせるアクセントカラーや、ふわりふわり自由奔放なマルチカラー。</p>